

「見失った羊と失くした銀貨のたとえ」

2023年09月07日

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を荒れ野に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し歩かないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけましたから、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておおくが、このように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にある。」（ルカ15：4～7）

徴税人や罪人が皆、主イエスの話を聞きたいと集まって来た。徴税人は、ユダヤ人から税金を取り立て、ローマに送る仕事をする人で、彼らは国を裏切る売国奴と見なされた。罪人とは社会的犯罪者ではなく、重い病に罹った人は神の裁きを受けて罰せられた罪人と烙印され、ユダヤ共同体から排除されていた。彼らは、主イエスの慰め深い話「居場所」を見出し、集まっていたのである。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちが寄って来て、「この人（主イエス）は罪人たちを受け入れ、一緒に食事をしている」と悪口を言った。彼らは律法を遵守し、清く正しい信仰生活を送っていると自負していた。そのため、徴税人や罪人を汚れた者として蔑み、排除していた。徴税人や罪人と関わると罪が伝染する、食事を共にすることなど、考えられないことであつた。彼らを排斥することによって、自らの「清さ」を保つと豪語していた。主イエスが徴税人や罪人と食事をしているのを見て、驚き、悪口を口走つたのである。この時、主イエスは、一つの譬え話をされた。

あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている人がいた。その内の一匹を見失った。羊飼いは九十九匹を荒れ野に残して、見失った一匹を見つけ出すまで、どこまでも捜し歩く。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、「見失った羊を見つけましたから、一緒に喜んでください」と言って、喜び合う。羊飼いは神であり、見失った一匹の羊は生きる場を失った人間で、それは、徴税人や罪人を指している。ファリサイ派の人々や律法学者たちが排除する徴税人や罪人を、神は捜し出し、保護の中に取り戻したら、天に喜びがある。そして、「言うておおくが、このように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にある」と言われた。著者ルカは、悔い改めて神の下に帰る信仰のあり方を重視する。しかし、見失った羊、即ち、徴税人も罪人も悔い改めていない。羊飼いが一方的に、探し出し、生きる場に回復させている。この譬えは、社会的に排除された者が人間として生存を回復することが、神のみ旨であると譬えたのである。ただ「九十九人の正しい人」は正しさを誇るファリサイ派や律法学者たちの人々への強烈な皮肉であることは言うを俟たない。

同じように、十枚のドラクメ銀貨を持っていた女が、その一枚を無くした時、灯をつけ、家を掃き、見つけ出すまで念入りに捜し続ける。そして、見つかった時には、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、「無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください」と言って、見つけた喜びを分かち合う。

二つの譬えは、ファリサイ派の人々や律法学者たちの宗教的差別、自らを清い者とし、病人や弱者を汚れていると烙印し、排除することへの強力な批判を加えている。そして、見失った、正しくは、生存を喪失させられた人々を、人間として尊厳を持って生きられる場を、神は保障されているという、神の愛を提示した譬えである。